

「なかまの日」としての平和・人権教育の取り組みについて

1. はじめに

『なかまの日』の始まりとねらい

毎月11日の「人権を確かめあう日」の設定に合わせ、本校も身の回りにある不合理や矛盾について考え、人権尊重の精神を育てる一助とするための活動を続けてきた。2004年度より、子ども自身の人権教育をより身近なものにするために『なかまの日』と名称を変え、以下の方法で、取組の改革を進めた。

・人権推進教員が資料などを準備し、共通理解のもと、学年の発達段階に応じて指導にあたる。

・朝の会で実施することを原則とする。

・全校放送や校内テレビ放送などを活用する。

2. なかまの日の充実をめざして

今年度(2013年度)は、過去10年間続けている『なかまの日』の月テーマの観点やねらいを明確にし、指導のあり方や工夫等を話し合った。

そして、児童の心にひびき、児童の生活にいかすことのできる取組を追求した。

2013『なかまの日』月テーマ(人権教育の観点)	
4月	元気よくあいさつをしよう。
5月	自分のよさを知ろう。(なかまづくり)
6月	言葉について考えよう。(なかまづくり)
7月	世界の国々や人々のことを知ろう。(国際理解・在日外国人教育)
8月	※人権教育校内研修 1学期の取組を報告
9月	男女なかよく共に生きる社会について考えよう。(男女共生、労働)
10月	人にやさしい佐保の町。(障害者問題)
11月	平和の大切さを考える。(反戦平和)
12月	となりの人を大切にしよう。(なかまづくり 生命を守る・人権尊重)
1月	命の大切さを知ろう。(生命を守る・人権尊重) 人権学習参観 (部落問題)
2月	わたしと環境。(環境問題)
3月	1年間をふりかえろう。(まとめ)

○『なかまの日』に、月テーマに合わせ①～⑥のながれで指導する。

① 各種資料、全校朝の会(放送)を活用する。

・月テーマのポスターを各教室に掲示する。

・月テーマに関する観点を提示し、関連する教材や資料を紹介する。

② 朝の会で実施するという原則にとらわれず、道徳の時間や学年集会等でも実施する。

③ 指導後、その内容や児童の様子を記入し、提出する。(共有フォルダに記入)

④ ③の振り返りを活用して職員研修の場で交流し、次への取組へとつなぐ。

⑤ 「なかまの日掲示板」に月テーマのポスターや資料を掲示する。

⑥ テーマに関わる人権教育校内研修を実施。

3. 各学年の取組の紹介

1年生 『元気よくあいさつをしよう』

ねらい 「あいさつをすることで、一人一人のつながりを大切にする。」

「だれにでもあいさつができるようになる。」

取組の工夫： あいさつに対して、児童の意識が高い時期に自己紹介に取り組む。児童の実態に合わせ、元気調べやお話の列へと発展させる。

児童の反応・様子、学び：

おたんじょうびの歌や似顔絵の効果により笑顔ではきはき自己紹介ができた。誰かに伝えることが喜びになった。

2年生 『自分のよさを知ろう』

ねらい 「自分のよさを見つけ、自分をほめ、認めるとともに友だちのよさに気づく」

取組の工夫： 「自分のための賞状を作ろう！」

児童の反応・様子、学び：

友だちが見つめてくれたよさから自分の長所を発見できた。賞状や賞状作りにより、目に見える形として、自分のよさを自覚できた。

3年生 『言葉について考えよう』

ねらい 「言葉が人に与える影響について考える」

「言われてうれしい言葉(ふわふわ言葉)、いやな言葉(ぎざぎざ言葉)について考える」

取組の工夫： うれしい言葉、いやな言葉を出し、その言葉について考え、それぞれの言葉に名前を付ける。学級掲示することで、ふわふわ言葉を共有化する。

児童の反応・様子、学び：

「ふわふわ言葉、ぎざぎざ言葉」と二つに整理・分類や名前を付けることによる効果。学級会で「ふわふわ言葉」をいっぱいにする提案が出た。言葉狩りでなく、意識を高める継続的な取り組みが必要である。

4年生 『人にやさしい佐保の町』

ねらい 「自分たちがくらす佐保のよさに気づく。」「地域の人々のやさしさに気づく。」

「体験から体の不自由な人々の願いや思いに気づき、協力して生きていく気持ちを育てる。」

「『ユニバーサルデザイン』の考えに目を向ける。」

取組の工夫： 佐保校区にある、人にやさしいところを考える。佐保のやさしさを見つけ、友だちに伝える。アイマスク、車いす、点字、手話の体験活動を通して自分の考えをまとめる。

地域に佐保のやさしさを発信し、「さほのわ」交流から佐保のやさしさについて考えを深める。

児童の反応・様子、学び：

校区にあるやさしい設備などを見つけ、佐保のよさを再認識した。体の不自由な人や高齢者の気持ちに触れ、自分たちのできることは何かを考えた。安心してくらす町の工夫を確かめた。介助・誘導方法を知り実践の大切さに気づいた。地域の高齢

者とやさしい態度で接した。

5年生 『男女なかよく共に生きる社会について考えよう』

ねらい 「自分らしく生きることの大切さを考える。」

「性別にとらわれることなく、自分らしく生きる大切さを感じ取る。」

取組の工夫： 詩「ひかるはひかる」のメッセージと子ども自身の体験と重ね合わせて考えた。学習後、「自分らしい」ってどんなこと？という問いかけで自分を表現させた。

児童の反応・様子、学び：

先入観で男女を判断する児童が多かったが、性別はどちらでもよく、「ひかるはひかる」結局「自分は自分」という考えが出た。「『自分らしい』ってどんなこと？」を考えるのは大変難しかったが、自分を見つめ、綴り終わった最後には自己を肯定することができた。性別にとらわれず自分らしく生きる大切さ、長所短所も自分であることを感じ取った。

6年生 『世界の国々や人々のことを知ろう』

ねらい 「世界の子どもたちがおかれている現状を知るとともに、自国の様子を見つめる。」

「目標を持ち、前向きに生きる気持ちを育てる。」

取組の工夫： 世界の子どもたちの現状を知ろう。自分の夢(目標・将来への希望)を書こう。世界の子どもたちの「夢」や自国の紹介。日本を世界の子どもたちに紹介してみよう。

児童の反応・様子、学び：

驚きとともに自分たちの当たり前が決してそうではないことに気づいた。どのような環境に置かれていても具体的な夢や希望を持って生きる子どもたちを知った。豊かであるが故に、忘れてしまいがちなことを指摘する姿も見られた。自国のよさを見出す機会となった。「自分の中や周りの人、身近な環境の中にもよさをみつける」大切さを感じ取れた。「豊かな国の子どもとして恥ずかしくないようにしたい」という感想が見られた。

4. まとめ.

4～6月の月テーマは、身近なところに視点をあてた内容であり、低学年児童も抵抗なく受け入れることができた。それによって、あいさつし伝え合うことの喜びを感じた児童がいたことや、自分のよさを認識できた児童もいた。そして、言葉を人間関係づくりの重要な要素に位置づけ、「ふわふわ言葉」の共有化を図る実践も見られた。これらの活動は児童たちの中で今も定着し浸透している。また、2学期には全校で募集した『ニコニコ俳句』を、生活委員会と運営委員会で階段に貼り、前向きな言葉を日常的に目に触れさせる環境をつくった。11月「平和の大切さを考える」では、戦中、本校運動場が爆撃され、亡くなった少女がいた事実やその少女を祀ったお地蔵さんが近くにあることが紹介された。これによって、身近にあった戦争の惨禍を知ることができた。そして、6年生が平和学習の成果を「生きる喜び 生きる希望をつなげていこう」というテーマで、全校朝礼で発表した。学年の学習成果を全校に広げていく試みが見られ、このことが全校児童の人権意識の高まりにつながることを期待している。

7月・10月の取組によって、自国のよさや自分の住む地域のやさしさに気づく契機になり、人への思いやりや前向きに生きることの尊さにもふれた。さら

に9月「男女なかよく共に生きる社会について考えよう。」の中で自分を見つめる学習を進めた結果、児童一人一人に自分らしさを肯定する姿が見られた。

全校児童が共通したテーマに沿って、人権を考え、自己や身の回りの問題を振り返る機会になった。そして、発達段階に応じて取組が工夫され、学年を重ねるごとに深めることが出来た。道徳の時間だけでなく、学活、社会、総合的な学習の時間、国語等の中で折に触れて指導がなされた。また、「おしゃれにいこう!!!2013」（校長だより）において、月テーマに関わる内容の話が多様な角度から伝えた。このことが児童の平和・人権への興味関心を促した。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）